

派遣先所属 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

氏名 栗原 正夫（くりばら まさお）

派遣期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

(1) 派遣業務の内容、現況

福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性ヨウ素放出の、子供への健康影響について調査するために、震災時福島県に住んでいた 18 歳以下の全国民に対して甲状腺検査を実施しています。

この甲状腺検査は 1 回で終わるのではなく、20 歳を超えるまでは 2 年ごと、25 歳以降は 25 歳、30 歳等、5 年ごとの節目に検査を実施するものです。

	検査期間	対象者数	受診者数	備考
検査 1 回目	平成 23 年 10 月～平成 26 年 03 月	約 37 万人	約 30 万人	終了
検査 2 回目	平成 26 年 04 月～平成 28 年 03 月	約 38 万人	約 27 万人	終了
検査 3 回目	平成 28 年 04 月～平成 30 年 03 月	約 38 万人	現在実施中	

チェルノブイリ原発事故で小児の甲状腺癌の増加が報告されたのは、事故から 4～5 年後で、事故時に主に乳幼児であった子供たちでした。

福島での東京電力福島第一原子力発電所の事故から 5 年が経過した今、現在で行っている 3 回目の検査がどのような結果になるのか、大変重要な時期を迎えています。

甲状腺検査は、福島県立医科大学と福島県内の 56 の医療機関、全国の都道府県の 105 の医療機関に甲状腺検査をお願いして実施しています。

埼玉県には平成 28 年 9 月 1 日時点で 4,666 人の方が福島県から避難されており、その中の事故当時 18 歳以下だった方が、自治医科大学附属さいたま医療センターと、さやま総合クリニックなどで甲状腺検査を受けています。

私は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターの甲状腺検査・技術管理チームに配属され、他の臨床検査技師と協力しながら、福島県内外の甲状腺検査を実施している医療機関から送られてくる検査データの確認や画像チェック作業に従事しています。

平成 28 年 12 月に、福島県立医科大学構内に建設中の福島の復興を健康面から支える、ふくしま国際医療科学センターが開所します。私の職場もそこに移転する予定で、気持ちも新たに頑張りたいと思っています。

(2) 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

震災から5年が経過していますが、いまだに避難生活を余儀なくされている多くの方がいらっしゃいます。除染で出た汚染された土壌の袋もほとんどまだ処分されずにそのまま置かれたままです。県内の至るところに環境放射線量測定装置があり、私の住んでいる、福島市内の自宅のすぐ隣にある幼稚園の園庭に設置された環境放射線量測定装置の値は、0.10 マイクロシーベルト/時で、埼玉県の約2倍くらいまで下がりました。

福島県は自然が豊かで車の渋滞もほとんどないのどかな所です。先日、磐梯吾妻スカイラインを通過して浄土平に紅葉を見に行きました。珍しく浄土平駐車場付近が渋滞していました。観光客の数も増えてきたのかと少しうれしくなりました。

私は滝を見るのが趣味なので週末には良く出かけます。私が行くところはあまり観光客が来ないような山奥が多いので、熊には会わないように気を付けています。また、わき水を飲んだり汲んでくるのも好きなので車にはいつもペットボトルをのせています。

下の写真は福島市松川町にあるクマガイソウの自生地に行った時のものです。福島県内至るところに色々な花の名所があるので是非行って来ててください。

